

「キリストの弟子の条件と約束 十字架と終わりの時」

ルカ 17:20-35

今年、教会に与えられたテーマは「変貌」と「變遷」です。大きく変えられていくこと、少しずつ作り変えられていくこと、この2つのテーマで進んでいます。変わろうとするときには多くの葛藤や試練があります。しかし、それを乗り越えて変わろうとするとき、神様が素晴らしい栄光を顕してください。私たちの人生に逆境があっても、大波が押し寄せるようなことがあっても、間違った道に行かないようにいつも心が平安であるように祈りましょう。

6次のへだたり

現在、世界の人口は80億人とされています。その中で1人の人が6人の人をたどっていくと、世界中の人と繋がることができると言われ、これを「6次のへだたり」と言います。2018年8月、ワシントン大学のラヂュッシュ・ラオ教授は、「キャンパス内にいる学生に念じたら、その学生はどのような行動をするか」という実験をしました。実験の結果、彼が念じたところ、学生の大半がいつもとは異なる行動をとったことが証明されました。このように、私たちが強く念じる想いは近くの人に伝わっていきます。この念じることを聖書では「祈り」と言っています。私たちが願い、祈り、行動するときに奇跡が起こるということは科学的にも証明されているのです。ですから、被災地で苦しんでいる人、遠く離れた外国にいる人たちも、私たちの6人先の友達です。私たちが彼らのことを祈り、願うならば、必ずそれは届きます。しかし、和解を願わず、いつまでも憎んでいるなら、その憎しみはいつまでもその人に影響を与えます。今、私たちは何を願い、祈りますか？

当たり前ではない

戦前の日本では、生活の中にアメリカ文化が当たり前であり、人々は自由に行き来していました。しかし、ある日突然、戦争が始まり「憎き米兵！」とアメリカは敵となりました。ウクライナとロシアの戦争も「まさか戦争はしないだろう」と多くの人が思っていました。突然それは始まりました。世界の情勢も大国の動きも「そうはならないのではないか」と言われていましたが、今、起こっています。しかし、聖書を見ると『これらは必ず起こることです。気をつけて、あわてないようにしなさい。』（マタイ 24:6）と書いてあります。

私たちは当たり前のように明日が来ると思っています。しかし、当たり前と思っていることは当たり前ではありません。ルターが「明日、世界が滅亡しようとも今日私はリンゴの木を植える」と言ったように、私たちは祈り続け、奇跡が起こると信じて行動する必要があります。

つまずきと死体

ルカ17章を2週にわたり見てきましたが、つまずきの話のあとにツアラトに冒された人々の話があり、今日の聖書箇所に入ります。当時、ツアラトは非常に強い皮膚病だったので、それにかかった人は遠くに隔離されていました。聖書を読むと、サマリア人を差別していたユダヤ人も彼らと一緒にいたことがわかります。ユダヤ人にとってサマリア人と同じ場所にいるなど考えられないことでしたが、不治の病という大きな問題を目の前にしたとき、それまでの価値観や自分が大切にしてきたことは関係なくなりました。私たちは痛みをおとして本来の自分の姿を見返すことができます。だからこそ、これから後に起こることの前に、私たちが持ってしまった間違った価値観を置いて、神様が願われている和解、愛、赦しを思い起こすようにと聖書は伝えています。

この時代、十字架の贖いは多くの人にはふせられていました。しかし終わりの時には、すべての人が救い主イエス・キリストだと理解する時が来ます。だから今、多くの人々がわからないイエス様の十字架で、あなたたちは本来の自分に戻りなさいと言われていきます。イエス様は人間の罪を癒すところから公生涯を進められました。しかし、この世の価値観はイエス様が不治の病を癒したときもメシアであることを否定し、10人の人が癒されたにもかかわらず信じて、イエス様を十字架にかけました。これが「つまずき」です。人はつまずくと、立ち直るところに向かうことがなかなかできません。『死体のあるところに、そこに、はげたかが来ます』（17:37）この死体とは、つまずいた人の行き着く先ということです。

赦すために

私たちが教会に集い、多くの人間関係をもっているのはなぜでしょうか？それは、私たちがつまずかないためです。私たちは自分の都合のよいことを言ってくれる人、自分の言うことを聞いてくれる人が好きです。しかし、聖書は「それらは本当の友ではない」と言います。『鉄は鉄によってとがれ、人はその友によってとがれる。』（箴言 27:17）とあるように、友達とはただの同調者ではありません。私たちが同調できないことを愛で伝え、本来

の道に戻れるように接してくれるのが友達です。ですから、あなたの周りにいる人たちに伝えて、その人が立ち返るなら、たとえ7回失敗したとしても「あなたは赦せ」と言われます。それでも立ち返らなければ、それは死体であるという意味です。ですから、私たちはつまずいたままになるのではなく、同調するでもなく、聞いたことが真実かを見極める必要があります。そのためには、片方の耳を塞ぎ、神様は何と言っているのかを聴かなければなりません。それは、私が赦すためです。

昨日+今日=明日ではない

当たり前のように明日が来るわけではありません。私たちは誰かに同調し、偽りの情報を広げていくのではなく、祈りのネットワークを広げていかなければなりません。私たちが狙っているものは背後からやってきます。ですから、私たちは終わりの時代に気を付けなければなりません。

ユダヤ人たちは神の国（17:20）を待ち望んでいましたが、イエス様をメシアとして受け入れることができませんでした。神の国はどこにあるか？と尋ねる彼らに対して、イエス様は『あなたがたのただ中にあるのです』（17:21）と言われました。イエス様は、愛し赦すために来られ、病を癒し、人々を悔い改めに導かれます。しかし、私たちが今のやり方を続けていたら、イエス様が目の前に来た時に気づくことができるでしょうか？天の恵みは自分でつかむもの、奪い取るものと言われますが、それらを奪っていくものに奪い続けられていないでしょうか。

人の子の日に起こること

今の時代、私たち異邦人は神様に祈り、神様を感じる事が赦されています。しかし、後にはそれができなくなるかと書かれています。（17:22）そしてこれから先、正しいことを言うリーダーがたくさん出てきますが、私たちはその言葉を聞いて、「それはイエス様が言っているか？」「聖書に書いてあるか？」と見極める必要があります。（17:23）『人はうわべを見るが、主は心を見る』（1サムエル 16:2）とあるように、私たちがリーダーを選ぶのなら、サウルではなくダビデを選ばなければいけません。

人の子の日に起こることは、ノアの日のようだとされています。（17:26）ノアの周りの人たちはどうだったのでしょうか？神様の声に聴き従うノアをバカにし、最後には滅びました。ロトの日、ロトの妻は過去に戻ろうとしたため塩の柱になりました。（17:27）人の子が顕れるのはそのような時です。まさしく今です。『自分のいのちを救おうと努めるものはそれを失い、それを失うものはいのちを保ちます』（17:33）本物が偽物かを選ばれるときがきます。（17:34,35）しかし、私たちはまだ『それは、どこですか？』（17:37）と自分の目線で見えています。神様は私たちが愛しているので、私たちが見ているところが違うなら「それではいけない」と言います。そう言われた時、私たちはどうするかを考えなければなりません。神様は、あなたの手が、あなたの目が、あなたをつまずかせるなら、ゲヘナに投げ込まれたほうがましですと言われます。（マタイ 18:6-9）

さいごに

私たちは今までのやり方を続けていいのでしょうか。自分を優先して、私は正しい、私はこうしたいと言いつづけますか。私たちがつまずきを選び続けるなら人を傷つけます。しかし、私たちが祈ればそれは世界中の人に届きます。私たちが自らの人生を変えたいと願って行動するなら、そのプロセスに神様は奇跡をもたらすことができます。

つまずく道ではなく、神様のことばに聴き、自分の十字架を負ってイエス様のあとをついていきましょう。

（要約者：岡本 享子）

（2024年3月10日）